令和7年度　鹿児島市小・中連携研修会（甲南中グループ）　研究のまとめ

鹿児島市立荒田小学校

1　グループ研究主題

生きる力を育む小・中連携の在り方について
～「学習指導」,「生徒指導」,「特別支援教育」「外国語指導」の観点から～

2　主題設定の理由

変化の激しい社会を担う子供たちに必要な「生きる力」を育むため，確かな学力，豊かな心，健やかな体の育成が学校教育に求められている。また，授業の質的改善やLD・ADHD等の学習に集中することが難しい児童・生徒への指導上の課題もある。さらに，いじめや不登校等の生徒指導上の課題も発生してきている。

そこで，同じ地域に生活する児童・生徒の健全育成や学力向上を目指し，小・中学校間で情報交換をしながら，連携して指導に当たっていくことは有意義であると考える。

3　研究の視点

(1)学習指導の充実を図る（A分科会）
① 学力の二極化の解消について
② 主体的な学びの習慣化について（家庭学習，タブレット活用含む）

(2)生徒指導の充実を図る（B分科会）
① 一人一人の自己肯定感を高めるための発達支持的生徒指導
② 不登校の対応
③ 保護者との連携

(3)特別支援教育の充実を図る（C分科会）
① 特別支援学級について
② 小中の引継ぎや連携について

(4)外国語指導の充実を図る
① 学力の二極化の解消について
② 主体的な学びの習慣化について（家庭学習，タブレット活用含む）

4　研修会の実際

(1)実施日時　令和7年6月23日(月)　14:05～16:30(受付　13:50～)
(2)会場校　鹿児島市立荒田小学校
(3)参加校　鹿児島市立中洲小学校　鹿児島市立甲南中学校
(4)日程

13:50　14:05　14:50　15:05　16:05　16:15　16:30

受付	授業参観	移動 休憩	分科会	指導・助言	報告会 (リモートor放送)

※ 養護教諭は，14:20まで授業参観後，保健室で情報交換を行い，B分科会(生徒指導)に参加

(5)各校からの事前レポート

甲 南 中 学 校	
A 学習指導	① ア 学力の二極化　　イ 主体的な学びの習慣化 ※前年度の小中連携の研究の視点と同じではあるが，大きな課題である。 ② ア ・ 学習形態の工夫(個で考え取り組む場面，ペアで思考を深める場面，グループでの対話を通して学びを深める場面の設定) ・ 支援員の先生との連携　　・ 個に応じた課題(タブレット等の効果的な活用) ・ 英語科:少人数指導，TTによる授業　　・ 漢検，英検等の受検の推奨 ・ 国語科:基礎的な漢字力の定着 〔漢字練習の宿題(宿題チェック)→その範囲をテスト→訂正して再提出(間違いがないか再チェック)→ファイルに綴る〕 イ ・「甲南中実践五項目」の徹底 ・「3つの達人」の徹底 → 発表しやすい雰囲気づくり ③ ・ 国語科:「て・に・を・は」正しい助詞の使い方の定着，スピーチ練習，聞く態度の徹底 (先生の話の途中で質問しない，感想を言わない，質問は最後に言う等) 作文用紙の書き方，使い方 ・ 理科:実験時のきまりごと，マナー等はどのようになっているのか ・ 基礎・基本的な内容の定着(例. 算数のかけ算)　　・ 自主学習の習慣化 ・ 小学校でどこまで学習しているか，を中学校側がもっとしっかり把握しておきたい ・ タブレットの使用頻度，持ち帰り等について ・ 生徒一人一人が自分のアカウントとパスワードを把握していてほしい(卒業時に渡すプリントに含める) ・ 小学校同士では，どの程度，連携や共通実践が図れているのか
B 生徒指導	① ア 一人一人の自己肯定感を高めるための発達指示的生徒指導 イ 不登校生の対応　　ウ 保護者との連携 ② ア ・ 褒める指導(グリーンカード)の啓発　　・ 生徒の共通理解，情報共有 イ ・ こまめな家庭訪問や電話連絡　・ 関係機関との連携 ウ ・ あんしんメールの活用　　・ 職員間での連携 ③ ・ 校則や躾のすり合わせ(中1ギャップをなくすため) 例) 靴下，靴，体育館シューズ，語先後礼，門礼等 ・ 敬語の使い方，一人称の使い方(「○○(自分の名前)は･･･」) ・ 休日の学校(校庭)開放について

C 特別支援教育	① ア 時間割の組み方(中学)　イ 複数学年の授業の進め方の工夫(3学年, 実態も異なる) ウ 支援員との連携　エ 個別の教育支援計画等　オ 進路　カ 小中合同の行事 ② ア 交流学級を同じクラスにして同じ動きができるようにした。(結果, 42人学級ができた)イ 小学校の複式の流れを参考にしている。(プリント等を前もって準備しておく, 2人は入れる時はTTで行う) ウ 支援員日誌を全職員と共有している。特別支援教育推進委員会を月1回に増やし情報共有をしている。 エ 共有フォルダに入力し活用を図っている。(活用したいが, 作成に労力をとられる) オ 進路については個別に様々なパターンがあるため, 早めに情報収集をする。 カ 2学期に甲南中特支学級訪問を計画中 ③ ・ 中学校特支学級におけるカリキュラムや進路を共有し伝えて頂きたい。 ・ 特支学級に入級した生徒 について, 入級に至った経緯がわかる資料がほしい。(委員会からの通知のみの生徒もおり, 参考となる情報が欲しい。) ・ 小中間でうまく情報交換をしていきたい。
D 外国語	① 英語学習への意欲, 学力の差が大きい。(特に「書く」ことに対する苦手意識が大きい) ② 重要表現を板書して示し, 文字をイメージとしてとらえる機会をできるだけ多く作るようにする。(音声と文字の一致) ③ 名前や住所等はローマ字(ヘボン式)で書けるようにする。

甲南中実践五項目

～自信と誇りに満ちた甲南中生をめざして～

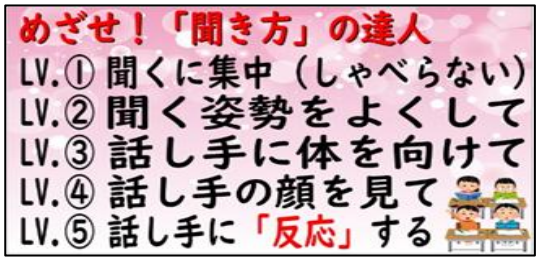
一, あいさつは, 甲南中の誇り。
【立ち止まり, 相手の目を見て, 伝わる声で行おう。】

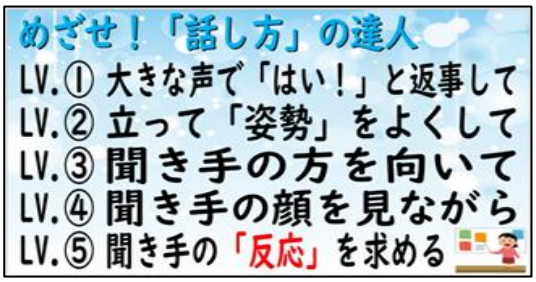
一, 授業前は, チャイム前に着席・黙想。
【心を落ち着かせて, 授業に臨もう。】

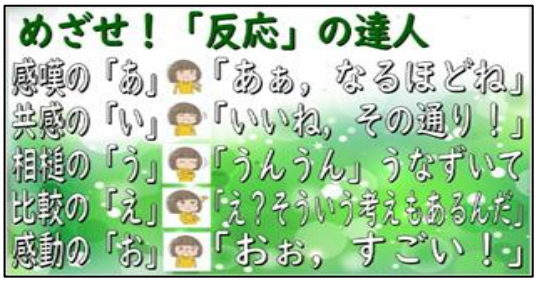
一, 給食時間は, 4校時終了後10分以内着席。
【手洗い・うがいをしっかりしよう。】

一, 清掃時は, 無言。
【時間いっぱい取り組もう。】

一, 集会は, 5分前集合で無言整列。
【無言で, 出席番号順に並び, 黙想しよう。】







中 洲 小 学 校	
A 学習指導	視点1 学力の二極化解消について ・ 学習形態の工夫 ・支援員との連携 ・個に応じた課題(タブレット活用含む) ・ 少人数指導, TT指導 ・漢検, 英検 ・漢字力の定着 など 視点2 主体的な学びの習慣化について(家庭学習, タブレット活用含む) ・ あいさつ, チャイム前着席, 給食前着席, 無言清掃, 集会での集合, 整列 ・ 聞き方, 話し方, 反応の達人 ・宿題の内容, 出し方 など
	① 視点1・2についての中洲小の実態, 課題 ・視点 1 について…R6年度のNRTの結果から, 5段階評価の2が 37%と最も高くなっていて, 1を含めると約 47%と半数近くになっている。指導形態は少人数指導, TT指導を主に行っている。 ・視点2について…家庭学習においては, ほとんどの子供が課題をこなしていて, タブレットの活用にも意欲的である。聞き方に課題があり, 指示がうまく伝わらない実態が多く見られる。
	② 課題を解決するための中洲小の取組(できれば3校で共通実践できそうな内容)等 ・視点1について…学習形態の工夫(学年習熟度の実施), 授業の終末でのポストテストの実施 ・視点2について…主体的な問いを促す導入の工夫, 自己の学びを見つめるふり返りの場の設置, 各校の重点取組事項の確実な実施
	③ 甲南中から各小学校への要望に対する中洲小の取組等について (スピーチ練習, 聞く態度, 作文用紙の使い方, タブレット持ち帰りについての実態) ・ スピーチについては特に時間を設けていない。発表時には, 事実, 考え, 理由を3点セットにして行うように指導をしている。 ・ 聞く態度については, 話をする人に体を向け, 友達の発表については, 自分の意見を踏まえながら聞く, 必要に応じてメモを取ることを授業を通して指導を行っている。 ・ 作文用紙は, コンクール出品時, 国語の書く活動における添削を通して指導している。 ・ タブレットの持ち帰りは, 長期休業中を中心に推奨している

B 生徒指導	視点1 一人一人の自己肯定感を高めるための発達支持的生徒指導 ・ 褒める指導(取組など) ・生徒理解, 情報共有 など 視点2 不登校の対応 ・ 家庭訪問, 電話連絡 関係機関との連携 など 視点3 保護者との連携 ・ あんしんメール ・職員間の連携 など
	① 視点1～3についての中洲小の実態, 課題 ・視点1について…帰りの会のいいこと紹介, 一人の児童にクラス全員の子がよさを書いて認める場の設定, 校内放送でのかがやき紹介(友達の活躍や善行の紹介)を通して, 認め合い, 励まし合いの雰囲気を作り出している。 児童理解については, 心の教育推進委員会, 連絡会を初めとし, その都度問題行動等について, 全職員で共通理解を図り, チーム体制で臨むようにしている。 ・視点2について…不登校児童については, 家庭との連絡が途切れないように担任が電話連絡, 家庭訪問を行っている。保護者の意識を変えたいが, 難しい現状にある。 関連機関においては, SC, 市子供家庭支援センター, 児童相談所等と連携し, よりよい対応のあり方を模索している。 ・視点3について…保護者とは, 年3回の教育相談の実施(全員と必ず1回は面談), 日々の電話相談を中心に連携を行っている。安心安全メールは, 欠席・遅刻の連絡, お知らせ等の発信に用いている。
	② 課題を解決するための取組(できれば3校で共通実践できそうな内容)等 ・視点1について…自分で自分のよさを紹介する場の設定, 他者の頑張りや活躍を称える場の設定(褒め褒めウィークなど),心の教育の推進(説話の実施, 心の教育コーナーの設置等) ・視点2について…児童理解…学校楽しぃ―と, いじめ相談アンケートの月1回の実施と活用, 自信の醸成(居場所と役割の用意, 投稿や作品展への参加等) ・視点3について…全員を対象とした教育相談の実施, SCの積極的活用, 保護者連携, 対応の研修(3校合同で)
	③甲南中から各小学校への要望に対する中洲小の取組等について (校則(靴下, 靴, 体育館シューズ, 語先後礼, 門礼 等)や躾のすり合わせ, 敬語の使い方, 休日の学校開放 等) ・ 校則(特に靴下, 靴)においては, 中学校を見据えて, 荒田小, 中洲小で統一したものを示してもよいと思う。 ・ 躾については, 各校実態があるのでそろえるのは難しいが, 語先後礼, 門礼, 授業前着席, 黙想は3校での共通実践事項として取り組んでもよいと思う。 ・ 敬語を含む礼節については発達段階を踏まえ, 系統的に指導をする。(言葉遣い, 返事, 入室時のマナー等)

C 特別支援教育	視点1…特別支援学級について ・時間割 ・授業の進め方 ・交流学級担任との連携 ・支援員との連携 など 視点2…小中の引継ぎや連携について ・個別の指導計画, 支援計画等 ・進路 ・小中合同行事 など
	① 視点1・2についての中洲小の実態 ・視点1について…毎週水曜日の連絡会において, 支援学級と交流学級間で確認をして時間割を設定している。支援学級児童が1日の流れが分かるように, 日々, 個人ごとに時間割を示している。授業の進め方は, 交流学級の時間割に合せているため重なることもあるが, 教科の入れ替えを行ったり, 1時間の中でもずらしを行ったりして, 個別に指導を行う時間を確保している。45 分間集中が難しい子供は, 前半を学習, 後半を読書, タブレットなど, 約束事を決めて行っている。交流学級担任とは随時, 支援学級, 交流学級での様子について報告をし合うことを通して, その子供の困り感や特性について共通理解をした上で対応を行っている。支援員との連携は, 毎週の各学級の時間割を基に, コーディネーターが支援員の時間割を作成し, それを基に支援を行っている。支援員は学習の理解度や困り感などを担任へ伝える等, 寄り添った指導の展開を目指している。 ・視点2について…個別の指導計画, 支援計画については, 配慮が必要な児童全員の作成, 見直しを行っている。過年度の実態がそのままで引き継がれないように現担任の目での気付きを記入するようにしている。進路においては, 就学相談時に漏れや遅れがないように, 特別支援校内委員会で話し合ったり, 夏の教育相談で保護者の考えを聞いたりしながら準備を進めている。小中合同行事においては, 6年生の進学前の授業見学を行っている。 担任同士の情報交換もできるとよいと考えている。
	② 課題を解決するための取組(できれば3校で共通実践できそうな内容)等 ・視点1について…情報交換会(支援学級と通常学級, 支援学級同士)の場の設定 効果的な自立活動の在り方(3校による共通研修) ・視点2について…進学前の学校参観, 引継ぎの場の設定 中学校教諭が小学校への授業見学 入級対象児童保護者との面談の場の設定
	③ 甲南中から各小学校への要望に対する中洲小の取組等について (中学校との情報交換, 特別支援学級のカリキュラム, 進路 など) ・自立活動の充実について, 活動内容や効果的な教材, 教具などの情報共有ができるとよい。 ・中学校を卒業した生徒の進路先について詳しく知りたい。(進路に関心の高い保護者が多い。)

D 外国語指導	視点1…学力の二極化解消について ・英語の学力差 ・重要表現 など 視点2…主体的な学びの習慣化について(家庭学習, タブレット活用含む) ・英語学習への意欲 など
	① 視点1・2についての中洲小の実態 ・視点1について…書く力において, 学力の大きな差が見られる。ローマ字の習得ができていない児童に多く見られる。重要表現においては, 意識的な学びが足りない現状にある。 ・視点2について…チャットやゲーム, 歌などを通して, 楽しく学ぶことができる授業を展開している。
	② 課題を解決するための取組(できれば3校で共通実践できそうな内容)等 ・視点1について…授業において, 聞いたことを書いたり, 文章の英訳, 和訳の時間を設けたりすることを通して, 学力の向上を図る。また, 重要表現においては, 中学校に繋がる内容であることを理解させるとともに教室への設営等を通して, 英語の日常化を図り, 定着を目指していく。 ・視点2について…和訳, 英訳の活動に自力, 協働の解決を通して取り組ませたり, 英語で自己紹介をさせたりするなど, 授業以外でも英語に触れる機会を増やし, 英語との距離を縮めていくようにする。
	③ 甲南中から各小学校への要望に対する中洲小の取組等について (名前や住所等をローマ字(ヘボン式)で書けるようにする。 など) ・ 中学進学に向けて, 身に付けるべき事項の一つとして, ローマ字の習得を掲げ, 自分に関する基本的な情報(名前, 誕生日, 特技等)を書けるようにする。

荒 田 小 学 校

A 学習指導	視点1 学力の二極化解消について ・学習形態の工夫 ・支援員との連携 ・個に応じた課題(タブレット活用含む) ・少人数指導, TT指導 ・漢検, 英検 ・漢字力の定着 など 視点2 主体的な学びの習慣化について(家庭学習, タブレット活用含む) ・あいさつ, チャイム前着席, 給食前着席, 無言清掃, 集会での集合, 整列 ・聞き方, 話し方, 反応の達人 ・宿題の内容, 出し方 など
	①視点1・2についての荒田小の実態, 課題 視点1 ・ 学力の二極化は年々顕著になっている。(自宅学習の差も) ・ 支援を要する児童には, 支援員による支援をしているが, 支援を要する児童数に対して, 支援員の数が足りない。(実態と合っていない) ・ 支援員との連携, 情報の共有が課題である。 ・ 個人→ペア→グループでの学習と学習形態の工夫をしている。 ・ 教科書や計算スキル等の問題を解き終わった児童には, タブレット(ナビマ)でドリルをさせ, 補充問題に取り組ませている。 ・ タブレットを使用した漢字の学習(QRコードを読み取って問題に取り組む) ・ テスト範囲の漢字を宿題に出し, 授業でミニテストを実施することで, 定着を図っている。 ・ 算数の文章問題に丸や下線を引かせ, 立式に必要な数字や言葉を押さえるようにしている。 視点2 ・ 2分前着席, 1分前黙想の定着を図っている。(日直の声かけあり) ・ 集会の際に, 無言で集合, 整列するよう意識させている。 ・ 登校後, 教室に入室する際に, 挨拶をする児童は増えてきたが, 返す児童は少ない。友達や周囲の人に無関心な児童がいる。 ・ 宿題について学年で話し合い, 統一した内容にしている。 ・ 日記指導で正しい助詞, 漢字, 原稿用紙の使い方を指導している。 ・ 個に応じた宿題を出している。(質や量の工夫) ・ 宿題の点検(提出状況や内容等), 必要に応じて家庭へ連絡している。
	②課題を解決するための荒田小の取組(できれば3校で共通実践できそうな内容)等 視点1 ・ 授業終末に, 定着の場の設定をする。タブレットを活用した補充問題, 個に応じた指導の工夫をする。 ・ 学習のきまりについて, 甲南中との連携を図る。 ・「甲南中実践五項目」を児童の発達の段階に合わせ, 小学校でも実践する。 視点2 ・「2分前着席, 1分前黙想」「無言集合, 無言整列」を共通実践する。(「門礼」について甲南中での取組を伺いたい。) ・「あ・は・は」運動,「し・ゆ・み」運動の実践 ・ 宿題について学年で話し合い, 統一した内容にする。(個に応じた質と量の調整, 家庭との連携)
	③甲南中から各小学校への要望に対する荒田小の取組等について (スピーチ練習, 聞く態度, 作文用紙の使い方, タブレット持ち帰りについての実態) ・ 相手の話を最後まで聞く, 共感しながら聞く指導をしている。 ・ 朝の会, 帰りの会でスピーチを実施している。聞いている児童は, 質問や感想を述べる時間を設定している。質問をすることで話題を広げる練習をしている。 ・ 発達の段階に応じて, 自分の考えや思いを伝える活動を取り入れている。 ・ タブレットの使い方に課題があり, 持ち帰りのデメリットが多いと感じる。持ち帰りを望んでいない保護者もいる。

B 生徒指導	視点1 一人一人の自己肯定感を高めるための発達支持的生徒指導 ・褒める指導(取組など) ・生徒理解, 情報共有 など 視点2 不登校の対応 ・家庭訪問, 電話連絡 関係機関との連携 など 視点3 保護者との連携 ・あんしんメール ・職員間の連携 など
	①視点1～3についての荒田小の実態, 課題 視点1 ・ 担任として, 一日一回は必ず全員と話すよう心がけている。叱った後のフォローも大切にしている。 ・児童同士で賞賛し合う活動を推進している。 全校での取組…きらきら星 学級での取組…帰りの会での「見つけたいいこと」発表, 誕生日の子へみんなからの誉め言葉, 次の日の日直を褒めて紹介・引き継ぎ, 今日のキラリ, キラキラ貯金 等) 視点2 ・ 不登校傾向の児童は多い。原因も多様化している。 ・ 不登校傾向の児童・保護者への連絡がとれない。不登校傾向の児童・保護者に担任からの連絡がとれない際は, 管理職からも連絡をとっている。 ・ 不登校傾向の児童対応について, 担任任せにならないようにチームで対応している。(担任, 学年部, 養護教諭, 管理職, SC 等) ・ 登校後, 直接教室へ向かえない児童は, 保健室でワンクッション置かせる。 ・ 家から出られない児童は, メタバース(市教委)を活用したり, その児童に応じた対応をしたりしている。 視点3 ・ 欠席, 遅刻等の連絡はあんしんメールでしている。 ・ 年3回の教育相談を実施している。1回目の4月は, 全員実施。2・3回目は希望者のみだが, 担任から保護者へお願いするケースもある。
	②課題を解決するための取組(できれば3校で共通実践できそうな内容)等 視点1 ・ 児童同士で賞賛し合う活動を推進する。 ・ 各学級で構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを共通実践する。 ・ 学年部で学級の様子, 児童の様子を共有する。同じ基準で指導する。 視点2 ・ 気になる児童の共有(学年会, 連絡会, 事例研修会, 適応対策委員会) ・ いじめアンケート, 学校たのしぃーとの活用 視点3 ・ 不登校児童の保護者と密に連携を図る。 ・ 保護者とのこまめな連絡・相談(保護者に寄り添う。児童と保護者が望む形で。)
	③甲南中から各小学校への要望に対する荒田小の取組等について (校則(靴下, 靴, 体育館シューズ, 語先後礼, 門礼 等)や躾のすり合わせ, 敬語の使い方, 休日の学校開放 等) ・ 生徒指導(校則, 生活のきまり等)について中学校とすり合わせていきたい。それが中1ギャップ解消につながると思う。 ・ 語先後礼, 門礼の共通実践をしたい。門礼の意義について中学校ではどのように指導しているのか伺いたい。 ・ 語先後礼は, 学級や儀式的行事等でも意識をさせ, 定着が見られる。 ・ 敬語の指導については, 担任によっても対応が違うので, 統一を図りたい。低学年から発達の段階を踏まえ, 系統的に指導したい。 ・ 自分のことは, 「私は」「ぼくは」と言う。名前で呼ばない。(年々増加傾向)

C 特別支援教育	視点1…特別支援学級について ・時間割 ・授業の進め方 ・交流学級担任との連携 ・支援員との連携 など 視点2…小中の引継ぎや連携について ・個別の指導計画, 支援計画等 ・進路 ・小中合同行事 など
	①視点1・2についての荒田小の実態 視点1 ・ 特別支援学級担任と交流学級担任の連携が課題である。学年会の資料を特別支援学級担任と共有している。 ・ 時間割は, 交流学級に合わせて基本的に国語と算数を特別支援学級で授業をしている。 ・ 交流学級で授業を受けることが困難な児童がいる。支援員がいればよいが, 毎時間入れるわけではない。 ・ 火曜日の1校時は, 生活単元学習と自立活動の時間としている。その際, 様々な学習形態の工夫をしている。(学級, 学年, 縦割り 等) ・ 毎週水曜日に特別支援部会を開き, 学習や活動, 市への報告物等の共通理解を図ったり, 火曜日の1校時の計画を立てたりしている。 ・ 支援員との連携については, 通常学級における支援を要する児童(保護者の合意有)に支援員を配置するようコーディネーターが割り振っている。 ・ 交流学級担任と児童の様子について情報交換をしている。(動画や写真も活用) ・ 教育相談を特支担任と交流担任が同席して実施している。 ・ 事例研修会を学期1回実施し, 校内委員会を経て, 就学指導につなげるなど対応を検討している。 ・ 特別支援学級児童の交流学級での問題等について, 特別支援学級担任, コーディネーターへ連絡・相談し, 解決策を検討する。 視点2 ・ 個別の指導計画, 教育支援計画の作成と引継ぎを確実に行う。 ・ 昨年度は, 新中1年の児童と保護者が甲南中の特別支援学級見学をさせていただいた。毎年実施できるとよい。
	②課題を解決するための取組(できれば3校で共通実践できそうな内容)等 視点1 ・ 週に1回特別支援部会を開き, 学習や活動, 市への報告物等の共通理解を図ったり, 生活単元学習や自立活動等の計画を立てる。 視点2 ・ 事例研修会を学期1回実施し, 校内委員会を経て, 就学指導につなげる。(計画的な就学指導)
	③甲南中から各小学校への要望に対する荒田小の取組等について (中学校との情報交換, 特別支援学級のカリキュラム, 進路 など) ・ 個別の指導計画, 教育支援計画の作成と引継ぎを確実に行う。 ・ 年度末の小中引継ぎ会の際に, 特別支援学級担任(小6担任)と新中1特別支援学級担任同士で, 直接引継ぎができるとよい。 ・ 新中1(現小6)を対象とした甲南中の特別支援学級見学を実施してほしい。(今回は厳しいかもしれないが, 可能であれば就学指導が始まる前の1学期がよい。)

D 外国語指導	視点1…学力の二極化解消について ・英語の学力差 ・重要表現 など 視点2…主体的な学びの習慣化について(家庭学習, タブレット活用含む) ・英語学習への意欲 など
	①視点1・2についての荒田小の実態 視点1 ・ 英語の習い事をしている児童とそうでない児童で英語力に大きな差がある。 ・ 小学校のテストの難易度が低く, 中学校から急に英語を難しく感じる児童が増えるのではないか。 視点2 ・ 外国語(外国語活動)の授業に意欲的に取り組む児童が多い。発音をせずに, 聞くことが主になっている児童もいる。 ・ AEAが準備してくださる教材で繰り返し発音などすることで, 意欲的に楽しく学んでいる。 ・ 楽しく学ぶことができているか担任として日々試行錯誤して授業をしている。
	②課題を解決するための取組(できれば3校で共通実践できそうな内容)等 視点1 ・ ローマ字をしっかりと身に付けさせる。また, 重要語句や表現を板書して, 書かせる。(書く時間の確保) 視点2 ・ 英語でのスピーチや交流の場面をタブレット(動画)で撮り, 提出させることで評価に活用したり, 発音や交流の上達を実感させたりする。 ・ 聞こえたことを恥ずかしがらずに発音できる環境を整える。(褒める指導, 失敗を受け入れる学級の雰囲気づくり)
	③甲南中から各小学校への要望に対する荒田小の取組等について (名前や住所等をローマ字(ヘボン式)で書けるようにする。 など) ・ 国語の時間にローマ字練習帳で, ローマ字を練習している。総合的な学習の時間でも, ローマ字練習やローマ字入力の練習時間が年間計画で設定されている。 ・ タブレットで文章を作成させる際に, ひらがな入力でなくローマ字入力をさせることが, ローマ字の上達に繋がる。ローマ字入力を速く行うタイピング練習も行っている。 ・ 小学3年で学習するローマ字が定着しないまま学年が上がってしまう。教科書で扱う時数も少ない。 ・ 中洲小と荒田小で英語(書くこと)をどこまで進めるか共通理解を図りたい。(甲南中の要望にも沿う形で。)どこまで必要か見極めることも必要。

(6)分科会報告

各分科会で協議の結果，次の３校共通実践事項を決定した。

学習指導の充実を図る（A分科会）
①2分前着席，1分前黙想を実施する。 ②甲南中のテスト期間に合わせて，各小学校でも家庭学習強調週間を設定する。 ③全教科，ポストテストやタブレットなどを使って，ふり返りの時間を設定し，学習内容の定着を図る。
(2)生徒指導の充実を図る（B分科会）
①児童生徒の自己肯定感を高めるための各校の取組を継続する。 （グリーンカード，かがやき発表，きらきら星　等） ②不登校児童生徒への継続した関わり ・担任１人で抱えこまない，チームで対応する。 ・学校だけでなく，外部にも連携を広げる，つなぐ。
(3)特別支援教育の充実を図る（C分科会）
①小中間の確実な引継ぎを行う。 ・甲南中特別支援学級見学，体験（1学期）の実施 ・年度末の小中連絡会の際の特支学級担任同士の引継ぎ ・特支学級児童と通常学級における支援を要する児童の個別の指導計画と教育支援計画の引継ぎ
(4)外国語指導の充実を図る
①文字と映像をセットにして，英語が楽しいと思える授業をする。 ②書く活動を充実させる。 （自分の名前や鹿児島などをヘボン式で書けるように）

5 成果と課題

⑴ 成果

- 今回は，まず甲南中学校から先に学校の課題と共通実践していきたい内容について事前レポートを提出していただき，それをもとに各小学校に課題と共通実践していきたい内容を考えていただいた。そうすることで，課題や共通実践事項についてより焦点化することができ，深い話し合いに繋がった。
- 研修会当日は，各学校の提案資料（事前提出）発表やグループ協議により，各学校の現状や取組，課題を知ることができた。
- 全学級の授業参観を実施したことで，小学校全学年（特別支援学級含む）の児童の実態や授業での実践等を共有し，それらをもとに協議が充実した。
- 3校それぞれ課題を共通の課題としてとらえ，今後の指導の方向性をもつことができた。また，共通実践事項を決定し，来年度以降に繋ぐことができた。

⑵ 課題

- 中学校の授業参観をしたいという意見があったので，来年度検討する。
- 今回，共通実践事項を決定し各校で取り組んだが，年度内に成果と課題について話し合う場がない。年1回だけでなく，複数回情報交換をしたいという意見もあったので，検討していく。